

豊後竹田駅周辺整備に関する公開質問状【回答】

- 1、 今回の豊後竹田駅周辺整備は、竹田市が平成 26 年度から実施した国の都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金)第 1 期に次ぐ、第 2 期の事業という理解でいいですか。

今回の都市再生整備計画は、竹田地区都市再生整備計画(第 1 期)(平成 26 年～平成 30 年)とエリアや指標等が違うため、厳密には国の規定による「第 2 期」ではありませんが、市としては、第 1 期からの継続的な取組と捉えて事業を推進しています。

- 2、 「十億円かけて駅周辺を整備する」という計画や、完成予想図を初めて知ったという市民が少なくありません。これまでの市民への説明や、情報提供が不足しているのではないかと考えますが、今後、どのように市民への理解を進めていくのでしょうか。

現在、「竹田市中心市街地活性化ビジョン」の検討を進めていますが、これに関連した市の施策の説明会を令和 8 年 4 月 23 日(木)に開催し、駅周辺整備事業についても説明します。また、現在「基本計画」を策定しており、景観上のデザインコンセプトについて複数案を提示するほか、たたき台として、必要な機能のおおまかな規模や配置案を整理します。基本計画策定後、あらためて市民説明を行うほか、デザインコンセプトを絞り込むため、アンケート調査等を実施し、市民の意見を丁寧に伺っていきます。併せて、景観審議会等を開催し、専門家の意見も取り入れながら整備を進めます。

さらに、ホームページで各種資料の公開や、皆様からのご質問やご意見に Q & A 形式でお答えするページを設ける準備を進めています。積極的な情報発信を行い、市民の皆様への周知と合意形成に努めてまいります。

- 3、 事業費十億円のうち、財政力が極めて乏しい竹田市が五億円を負うことによって、市民生活や福祉サービスなどが低下する恐れはありませんか。

「広報たけた令和 8 年 4 月号」において、本市の令和 8 年度一般会計予

算（総額約 206 億円）をお示ししていますが、予算編成においては6つの「まちづくりの基本方針」を定めており、重点施策等とのバランスを鑑みながら配分しています。また、本事業については5箇年の計画期間で執行することとしており、単年度における財政負担を2億円（その内、国の補助率約5割）程度とし、偏ることのないよう留意しています。また、維持管理費は他の公共施設に比べて大幅に軽減することが可能です。市の財政の健全性を維持しつつ、市民生活や福祉サービスに影響を及ぼすことのないよう執行してまいります。

- 4、 竹田市の将来の街づくりのためにすべきことはたくさんあると思いますが、竹田駅周辺整備にこだわる理由は何でしょうか。また、駅周辺整備によって、どのような効果が生まれるのか、具体的に教えてください(数字を含めて)。

#### 【豊後竹田駅周辺整備を行う理由】

「広報たけた令和8年4月号」で予算編成の基本方針や重点施策について公表していますが、竹田市では、福祉・子育て・教育・産業振興など、あらゆる分野のバランスに配慮しながら予算を編成し、市政運営を進めています。そのうえで、豊後竹田駅周辺整備は、市全体の活力を生み出すための重要な基盤整備として位置づけています。これは、公共交通のハブ機能を強化しつつ、駅を拠点に人の流れを生み、通りの価値を高め、城下町や市街地全体のにぎわいを高めるためです。

また、この整備は、従来の都市計画において方針が定められながら長年着手できていなかった「駅前広場整備」という課題に対し、市として責任をもって取り組むものです。

#### 【駅周辺整備による効果について】

本事業の大きな目標として、次の3点を掲げています。

- ・誰もが、安心・安全に利用・交流できる駅前空間を「創る」
- ・中心市街地と市内周辺地域、竹田市と他地域を「結ぶ」
- ・豊後竹田駅と城下町（中心市街地）を「繋ぐ」

こうした目標のもと、駅前広場や駐車場を含む周辺整備により、次のような効果が期待されます。

- ・市民や来訪者の移動を支える公共交通ハブとしての利便性向上
- ・老朽化した施設の更新による安全性・利便性の向上と、まちのイメージアップ

・中九州横断道路延伸に伴い増加した車両・大型バスを駅前駐車場へ誘導しやすくなり、来訪者が駅を起点として城下町へ足を運びやすくなる。

こうした「人の流れ」の創出は、交流人口の増加や地域のにぎわいにつながり、結果として地域経済の活性化に寄与します。このため、駅周辺整備は公共事業としての経済波及効果に加え、まち全体の発展を支える基盤整備として極めて重要な事業であると言えます。

また、駅周辺整備の波及効果は、市全体の観光施策や交通施策と組み合わせることで、相乗効果をより高めることができます。現在も、ソフト事業含めた官民の取組みを並行して実施しており、滞在時間の延伸や市街地を歩いて巡りやすい環境づくりを通じて、市内消費額の増加や、空き家・空き店舗を活用した民間投資の誘発を図っていきます。

今後本事業と他の施策を一体的に進めることで、市全体の活力向上と地域経済の発展につながると考えています。

- 5、 今回の完成予想図は、宇佐市の柳ヶ浦駅と瓜二つです。竹田駅の特徴である落門の滝や岩壁、朝倉文夫作の彫刻などを活かすべきと考えますが、今後、市民の声を聞いて練っていくのでしょうか。

豊後竹田駅の歴史的背景、文化的な懐の深さ、他に類を見ない景観の固有性などは、竹田市の大切な財産であり、守り、次の世代へ引き継ぐべきものであると認識しています。

現在公開している基本構想図では、国が定める「駅前広場計画指針」に基づき、安全な動線を確認し、限られた敷地でのロータリー・広場の適切な配置が求められます。このため、基本的な構成は一定程度、全国の駅と類似したものとなる傾向があります。これは安全性と機能性を確保するためのものです。なお、この基本構想は、竹田市都市計画審議会等で審議・承認を受けてきたものです。

一方で、駅前の印象を大きく左右するのは、ロータリーの形状そのものではなく、今後検討を進める各施設・構造物の外観デザイン、素材選定、景観との調和といった要素です。豊後竹田駅周辺や城下町地区には、落門の滝、岩壁の景観、朝倉文夫の彫刻作品を始め、多くの歴史的・文化的資源が存在しており、これらをどのように駅前空間に取り入れるかが、今後の検討の中心となります。

竹田市は、豊後竹田駅にふさわしい景観づくりを進めるため、まずはデザインコンセプトを定める段階から、市民の意見を丁寧に向うことを重視

しています。あわせて、竹田市景観審議会など、専門家の意見も取り入れながら、竹田らしさを表現できる整備を進めていきます。

- 6、 2月24日の説明会で、市側は、「現在は基本構想の段階で、これから基本計画を作る。市としては事業を進めたいが、どこかで判断してもらうことになる」と説明しました。最終的な判断までの進め方についてどのようにお考えでしょうか。

令和8年度当初予算案を議会において承認いただいたことを受け、まず用地取得・建物移転補償に向けた準備作業を進めていきます。同時に、現在策定中の「基本計画」において、景観上のデザインコンセプトについて複数案を提示する予定です。あわせて、たたき台として、必要な機能のおおまかな規模や配置案を整理します。これらの案については、市民説明会やアンケート調査等を通じて十分に意見を伺い、その内容を踏まえた上で、詳細なデザイン等を検討していきます。また、不動産鑑定や測量調査などを行い、現在概算で算出している事業費について、より精緻な金額をお示しできるよう努めます。

工事については、土木工事を令和9～10年頃に先行して実施し、トイレやキャノピー(屋根)等の工事は土木工事後の令和11年頃を予定しています。

この間、市民への説明会やアンケート調査、ホームページでの意見募集など、継続的に周知を行うとともに、皆様の声を丁寧に伺いながら合意形成に努めてまいります。本事業は、竹田市の将来を見据えた重要な基盤整備であり、市民の皆さまのご理解・ご協力が不可欠です。

引き続き、市民の皆様へ透明性をもって情報をお示し、毎年度議会の承認をいただきながら、事業を進めてまいります。